

政府案と市民連絡会提案のポイント

1325NAP 市民連絡会コーディネーター 本山

2013年12月の少人数グループ会合で政府が示した「第1稿」は、すでに日本政府が行っていること、行う予定であることを中心とする内容で、1325号決議実現のためにこれから何ができるかという観点からのものではありませんでした。そこで市民連絡会では、政府案をもとにコメントするのではなく、達成すべき成果とそのために必要な具体策について、代替案を提示してきました（資料参照）。この市民連絡会提案をもとに協議が重ねられてきた結果が、パブリックコメントに付される草案です。

日本版 NAP 草案の特徴

- 他の「先進国」型 NAP と同様、国内課題よりも海外支援策が中心。
- 本来、1325 決議の射程に入らない自然災害（国内を含む）分野もカバー。
- 基本的に、女性・女兒だけでなく、難民・国内避難民、民族的・宗教的・言語的少数者、障害者、保護者のいない子ども、女性世帯主世帯、LGBT など、脆弱性の高い多様な受益者を対象。
- モニタリングに反映させるため、指標を細かく明記。
- 関係全府省庁によるモニタリング。市民社会が参加する評価委員会を設置し、3年後に見直し。
- 在日米軍（外国軍）の暴力についても言及（フィリピン、韓国 NAP は記載なし）。

草案に入らなかった市民連絡会の主要な提案

市民連絡会からの代替案は、草案にかなり生かされた一方、落ちてしまった点、趣旨が弱められてしまった点もかなりあります。市民連絡会提案との主要な違いについてまとめました。パブコメの参考としてください。

全体的な課題

- 日本軍「慰安婦」問題を含む過去の戦争への反省、憲法9条への明確な言及
- 日本国内の課題（特に草の根女性の意思決定への参加確保、省庁の既存の活動におけるジェンダー視点の導入、各機関内におけるジェンダー平等・ジェンダー暴力防止策の確保、近隣諸国との平和構築・紛争予防、難民保護など）に関する具体策
- 市民社会・NGO が主体となる活動、調査研究の促進
- 全体的に指標は市民連絡会提案より曖昧
- 1325 の本来の目的（平和構築と紛争予防に向けた女性の参加）に、どう役立てられるか？

序文

- 「過去の戦争において、日本が女性に対する大規模な暴力を引き起こした」等の表現で日本軍「慰安婦」問題への反省を明記するよう求めたが、入らなかった。
- 近隣諸国との友好関係の構築、軍隊と女性への暴力といった特有の課題を明記することを提案したが盛り込まれなかった。

参画

- 国内の外交・安全保障政策に関わる意思決定への女性の参画（目標4）に関連して、「民間の研究・関連活動の促進」「女性の参画や昇進を妨げる要因の分析、改善策まとめ」「外交・安全保障政策に関わる意思決定プロセスの透明化と、特に直接影響を受ける女性との協議」等の記載を求めたが、入らなかった。
- PKO等の活動（目標4）について、市民連絡会は「国連機関における女性管理職の増強支援」「国連ミッションに日本政府が派遣する部隊派遣以外の女性自衛官・警察および文民要員による貢献強化」を提案していたが、草案では「適材適所の要員選考や志願状況を踏まえ、PKO又は二国間協力等のミッションに女性要員を積極的に派遣」「日本人女性が国連等国际機関や国連ミッション等のポストに就くよう積極的に支援。特に幹部への登用を促進」と、焦点がずれている。

保護

- ジェンダーに基づく暴力（GBV）のリスク低減・予防（目標2）について、グッドプラクティスの蓄積・研究を提案したが入らなかった。
- 日本に保護を求めてやってきた難民・無国籍者の保護とジェンダーに基づく暴力（目標3具体策4）について、提案した具体策の多くが入っていない。
- 自衛隊内部におけるジェンダーに基づく暴力（市民連絡会代替案の目標4具体策4）について、入らなかった。
- 外国軍によるジェンダーに基づく暴力（目標4具体策5・6）について、モニタリングする内容が「法的対応」のみに限定されている。また、「不処罰の終焉に向けた派遣元政府との協議」も入らなかった。

予防

- 早期警戒・早期対応メカニズムの導入（目標1）について、早期「対応」の部分が弱くなっている。
- 日本と近隣諸国との緊張緩和、紛争予防に向けた平和教育（目標6具体策3）について、「紛争下におけるジェンダーに基づく暴力（GBV）の問題を含む、ジェンダー視点からの平和教育」を提案していたが、「紛争下におけるGBV」「ジェンダー視点」というポイントを外され、ただの平和教育促進とされている。

人道復興支援

- 全般的に、NGOの果たす役割に関する記述が削られている。
- 全般的に、ジェンダー研修の対象から管理職が落とされている。
- 全般的に、市民連絡会提案の「ジェンダー視点」が「ジェンダー配慮」に書き換えられている。
- 人道支援を実施する機関・組織内におけるジェンダー主流化、GBV防止の仕組みについて提案したが弱くなった。

モニタリング・評価

基本的に市民連絡会提案が受け入れられた